

令和6年6月5日

在学生の皆様

國學院大學
教学事務部教務課

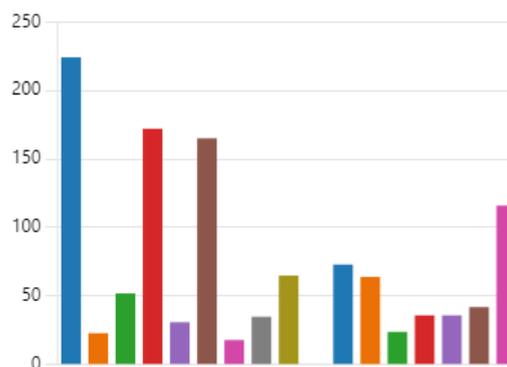
「令和6年度前期履修登録に関するアンケート」の結果について

このアンケートは、次年度以降の履修登録の改善に向けて、実際の状況を調査するものです。令和6年度前期に実施された本アンケートでは、令和6年4月18日から5月8日までの期間に1,176人の学生から回答を得ることができ、回答率は10.8%（1,176/10,840）でした。多くの学生の皆様にご協力いただき、心より感謝申し上げます。なお、教務課では、後期も同様の調査を実施する予定ですので、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

以下、アンケート結果の概要を報告いたしますので、ぜひご確認ください。

Q1. あなたの所属学科等を教えてください。

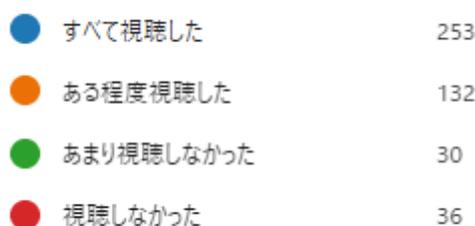
● 日本文学科	224
● 中国文学科	23
● 外国語文化学科	52
● 史学科	172
● 哲学科	31
● 法律専攻	165
● 法律専門職専攻	18
● 政治専攻	35
● 経済学科	65
● 経済ネットワークキング学科	0
● 経営学科	73
● 神道文化学科（昼間主）	64
● 神道文化学科（夜間主）	24
● 初等教育学科	36
● 健康体育学科	36
● 子ども支援学科	42
● 観光まちづくり学科	116



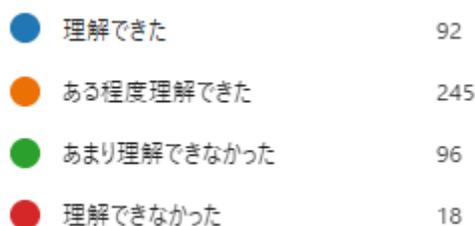
Q2. あなたの学年を教えてください。



Q3. オンデマンド型配信の履修に関する説明会を視聴しましたか。



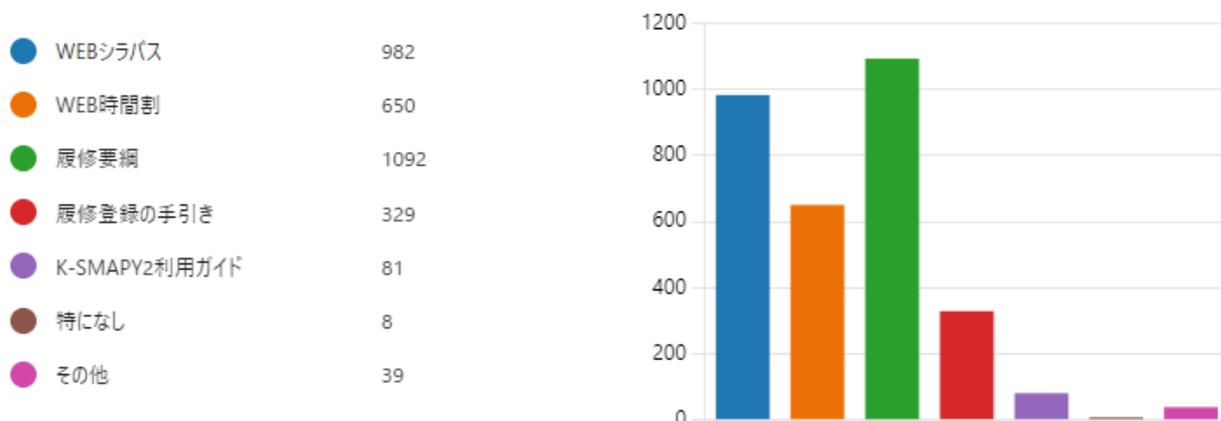
Q4. 履修に関する説明会の内容は理解できましたか。



オンデマンド型配信の履修に関する説明会を視聴した学生の理解度について、Q3とQ4のクロス集計分析を行いました。視聴と理解度には、以下の表のような関連性が見られ（回答者数／視聴状況ごとの各理解度に占める割合）、視聴した学生ほど理解度が高い傾向にありました。ただし、視聴した学生の中でも理解度にばらつきがあり、完全に理解できた学生もいれば、理解が難しかったと感じた学生もいます。また、所属学科によっても大きなばらつきがありました（63.4%から100.0%）。理解できなかった学生へのフォローアップや、一部の学科では、説明会の内容の改善が求められていると考えます。来年度の説明会については、この点を十分に考慮の上で来年度の実施内容を検討するようにいたします。また、来年度のアンケートでは、理解できなかった理由も尋ねることができるよう設計し、正確に把握できるように努めます。

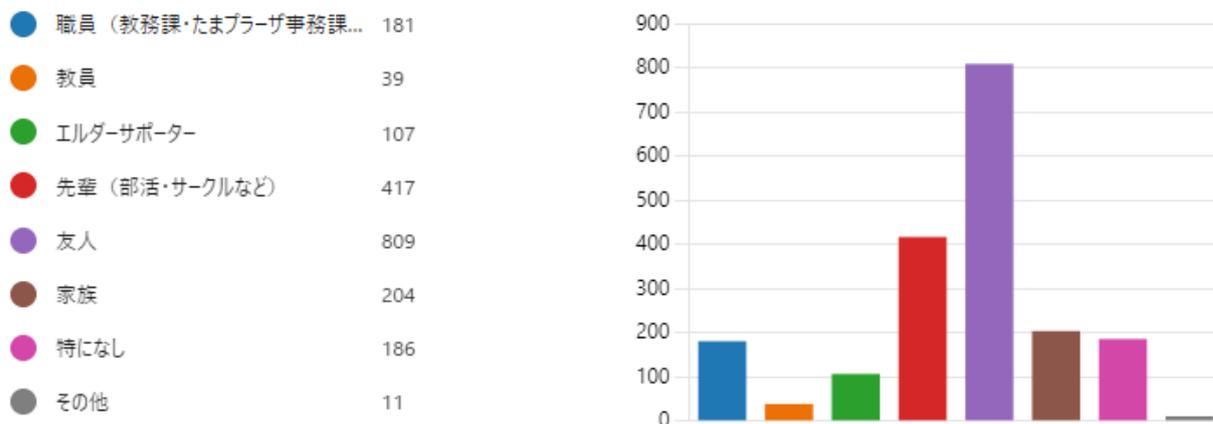
	理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった
すべて視聴した	58 / 22.9%	140 / 55.3%	51 / 20.2%	4 / 1.6%
ある程度視聴した	23 / 17.4%	75 / 56.8%	30 / 22.7%	4 / 3.0%
あまり視聴しなかった	5 / 16.7%	18 / 60.0%	6 / 20.0%	1 / 3.3%
視聴しなかった	6 / 16.7%	12 / 33.3%	9 / 25.0%	9 / 25.0%

Q5. 履修登録をする際に利用した情報源を教えてください。



この質問項目の結果から、履修要綱とWEBシラバスが最も多く利用され、次にWEB時間割が利用されていることが分かりました。一方で、履修登録の手引きやK-SMAPY2利用ガイドなどは利用者が比較的少ない傾向にありました。しかし、学年とのクロス集計分析を行ったところ、履修登録の手引きを利用した学生329人のうち1年生が199人(60.5%)を占めており、また、K-SMAPY2利用ガイドについても学生81人のうち1年生が69人(85.1%)を占めていました。履修登録の手引きは新入生向けの導入的な内容で構成しており、K-SMAPY2利用ガイドは操作マニュアルのため、学年進行に伴ってこれらの情報源の利用が減っているものと考えられます。いずれも各学年において重要な情報源であることが確認できましたので、今後もこれらの充実に努めてまいります。

Q6. 履修登録をする際に相談した相手を教えてください。



Q7. 履修登録は順調でしたか。

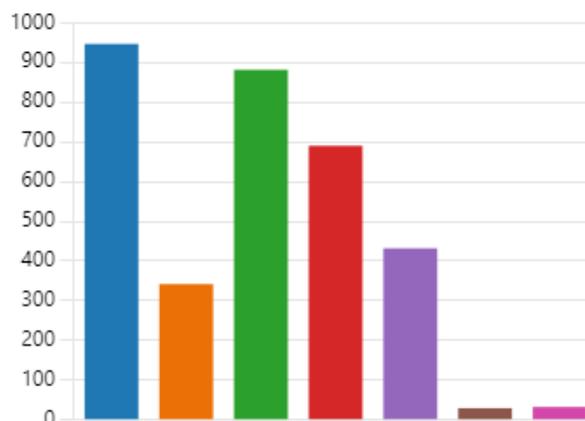
● 順調だった	210
● ある程度順調だった	549
● あまり順調ではなかった	295
● 順調ではなかった	122



学年とのクロス集計分析を行ったところ、「あまり順調ではなかった」「順調ではなかった」と回答した学生 417 人のうち、1 年生が 152 人 (36.5%)、2 年生が 119 人 (28.5%)、3 年生が 89 人 (21.3%)、4 年生が 57 人 (13.7%) でした。低学年ほど履修登録に苦勞している傾向が伺えるため、エルダーサポーターをはじめとする履修相談体制の充実化を検討したいと思います。また、Q6 とのクロス集計分析では、相談した相手がいなかった学生 186 人のうち、「あまり順調ではなかった」「順調ではなかった」と回答した学生は 61 人 (32.8%) でした。これは全体の同割合 35.5% (417/1,176 人) と比べて高い傾向にあるとは言えない結果でした。次回のアンケートでは、順調ではなかった理由も尋ねることができるように設計し、正確に把握できるように努めます。

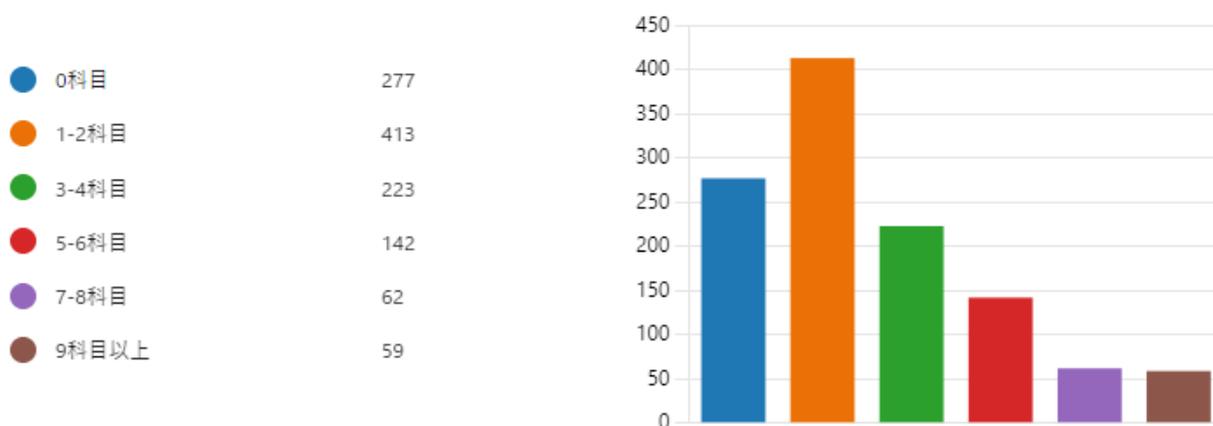
Q8. 履修登録をする際に重視した点は何ですか。

● 授業の内容	946
● 教員の評判	342
● 時間割	881
● 評価方法	690
● 対面・遠隔の実施形態	432
● 特になし	30
● その他	33



この質問項目の結果から、学生が履修登録する際に最も重視したのは「授業の内容」(80.4%、946/1,176 人) で、学生にとって極めて重要な要素であることが示されました。次に重視されたのは「時間割」(74.9%、881/1,176 人) で、学生の予定や学生生活に密接に関わるため、多くの学生が重視していることが分かります。その他にも、「評価方法」(58.7%、690/1,176 人)、「対面・遠隔の実施形態」(36.7%、432/1,176 人)、「教員の評判」(29.1%、342/1,176 人) も重要視されました。ただし、「特になし」と回答した学生や、「その他」の要因を挙げた学生も一定数存在しました。履修登録において学生が様々な要素を考慮していることが分かりますが、授業の内容や時間割が最も重視されていることが明らかになりました。

Q9. 抽選で落選した科目はどの程度ありましたか。



この質問項目の結果を見ると、抽選で落選した科目数には一定の傾向が見られます。最も多かったのは「1-2科目」(35.1%、413/1,176人)で、1つから2つの科目で抽選に落選したことがわかります。次に多かったのは「0科目」(23.6%、277/1,176人)で、一度も落選しなかったことが明らかになりました。その後、「3-4科目」「5-6科目」「7-8科目」「9科目以上」と続き、それぞれの範囲で抽選で落選した学生数が減っていきます。この結果から、抽選で落選した科目数は学生によって異なることがわかります。一部の学生は一切落選しなかった一方で、多くの科目で抽選に落選した学生もいました。

また、Q10とのクロス集計分析を行ったところ、抽選で落選した科目が3科目以上と回答した学生のうち、「英語」と回答した学生は65.5%(55/84人)に達しました。英語については、第1希望から第6希望までを入力し、抽選により当選が決定される抽選方式を採用しています。そのため、希望どおりの英語を履修できない場合もありますが、必修科目の英語を履修できるよう配慮した仕組みとなっています。この点についてご理解いただけるよう、今後も周知に努めてまいります。

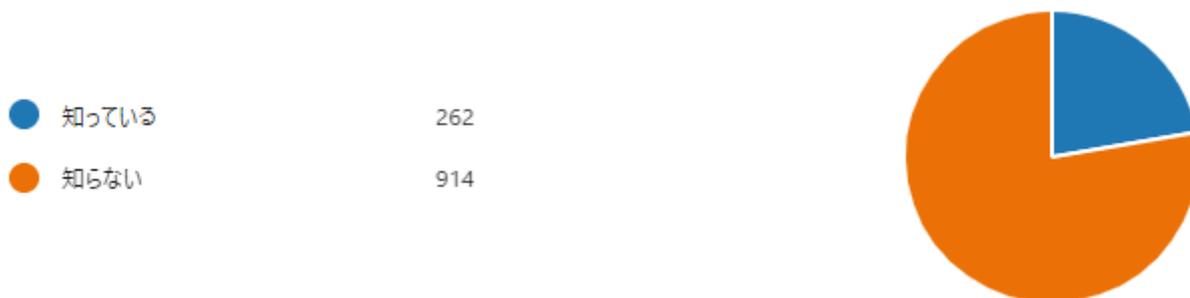
なお、オンデマンド型授業に多くの希望者が集中しているため、落選者が増えてしまう状況にあります。また、対面授業においても、月曜日から金曜日の2~5限に希望者が集中する傾向が見られますが、1限や6・7限、土曜日の授業では比較的定員に余裕があります。来年度に向けては、オンデマンド型授業の開講比率を高めることを検討するとともに、今後はK-SMAPY2にて抽選倍率の状況が把握できるよう、システムの改善を検討してまいります。

Q.10. 抽選で落選した科目に必修科目が含まれていた場合は、その科目名を教えてください。なお、必修科目は卒業するために必ず修得しなければならない科目であり、選択必修科目とは異なりますので、ご注意ください。

必修科目では、「英語演習ⅡA」が複数挙げられていました。この科目に関して、履修登録時に対象者が定員を超えているにも関わらず、授業科目の開講数が不足していることが判明し、授業開始直前になって対応しました。今後は同様の事態が生じないように十分に留意いたします。誠に申し訳ございませんでした。この科目以外にも、必修科目ではありませんが、選択必修科目や選択科目で38の授業科目が挙げられていました。特に、共通教育プログラムの専門教養科目群を構成する法学・政治学パッケージの選択必修科目が多く挙げられていました。これらの科目について、来年度から少しで

も開講数を増やすことができるよう調整いたします。

Q11. 万が一、必修科目が落選した場合は、教務課またはたまプラーザ事務課の窓口で対処方法を説明し対応していますが、そのことはご存知ですか。



この質問項目の結果から、必修科目が落選した場合の対応方法を把握している学生の割合が低いこと（28.7%、262/1,176人）が明らかになりました。これを受け、学生への情報伝達の改善が必要であると認識いたしました。なお、履修登録の抽選における公平性を保つため、各学期に必修科目が開講さあれている場合は後期での履修登録を、また、選択必修科目については他の開講科目をご提案するなどの対応を取らせていただくことがございますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

Q12. 履修登録について、良い点・悪い点などの意見がありましたら教えてください。

学生の皆様から貴重なご意見を65件いただき、心より感謝申し上げます。受け取った意見を真摯に受け止め、今後の改善に努めてまいります。以下、特に多くのご要望があった事項について、現時点での考えを示します。

- 抽選の過度な実施に関する複数の指摘が寄せられました。必修科目については、抽選からクラス指定に変更する案もありますが、その場合、曜日や時限を選択できないなどのデメリットも考慮する必要があります。選択必修科目については、専門教養科目群の法学・政治学パッケージなど、開講科目数の検証を改めて行った上で開講科目数を増やす必要があると考えています。
- 学生の希望やニーズが抽選システムに反映されていないとの指摘がありました。抽選システムを改善する際には、引き続きアンケートなどを実施し、学生の声を十分に考慮した上で、より公平なシステムを構築するように検討します。
- 履修登録の手続きが煩雑で効率性に欠けるとの指摘がありました。履修登録を円滑に行うことができるよう、履修登録期間や情報提供のタイミングなどに関して改善を行うよう努めます。